

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

08.06.2004

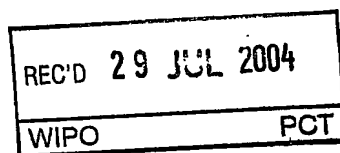
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日            2 0 0 3 年   7 月 1 8 日  
Date of Application:

出 願 番 号            特 願 2 0 0 3 - 2 7 6 7 4 4  
Application Number:  
[ST. 10/C] :            [ J P 2 0 0 3 - 2 7 6 7 4 4 ]

出   願   人            ケーアール工業株式会社  
Applicant(s):

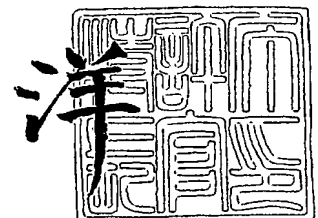


PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 4 年   7 月 1 5 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小 川



【書類名】 特許願  
【整理番号】 KE-03-010P  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都渋谷区代々木 1 - 5 8 - 1 1 ケーアール工業株式会社内  
    【氏名】 永田 雅一  
【特許出願人】  
    【識別番号】 398004219  
    【氏名又は名称】 ケーアール工業株式会社  
【特許出願人】  
    【住所又は居所】 神奈川県川崎市麻生区王禅寺東 4 - 2 3 - 1  
    【氏名又は名称】 神谷 正  
【代理人】  
    【識別番号】 100084353  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 八嶋 敬市  
    【電話番号】 03-3582-0944  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 041977  
    【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 特許請求の範囲 1  
    【物件名】 明細書 1  
    【物件名】 図面 1  
    【物件名】 要約書 1

**【書類名】 特許請求の範囲****【請求項 1】**

それぞれ中央空間を有する一対の間隔を開けた環状保持部を形成したハウジングと、それら一対の環状保持部の間に備えるものであって基部と係合部とを有するシャンクと、前記シャンクにフリクションを与えるためのスプリングとを有するラチェットレンチにおいて、前記スプリングとそのスプリングを保護するガイド部材とを前記シャンクに保持手段で保持して1個のシャンクアッセンブリを形成し、他方の前記環状保持部の壁によってその中央空間から前記シャンクアッセンブリが外に抜け出るのを阻止し、一方の前記環状保持部にその中央空間から前記シャンクアッセンブリが外に抜け出るのを防止するための抜け防止手段を取り付けたことを特徴とするラチェットレンチ。

**【請求項 2】**

前記一対の環状保持部を形成したハウジングを生素材とし、前記他方の環状保持部の内壁に環状のへこみ部を形成し、その環状のへこみ部に前記シャンクと前記他方の環状保持部との接触を遮断するための磨耗防止部材を介在させることを特徴とする請求項 1 記載のラチェットレンチ。

**【請求項 3】**

前記磨耗防止部材を中央に穴を形成した環状の形状とし、前記シャンクに突起を形成し、その突起を前記磨耗防止部材の前記穴に嵌合させるようにしたことを特徴とする請求項 2 記載のラチェットレンチ。

**【請求項 4】**

前記磨耗防止部材と前記他方の環状保持部との間に回り止め防止手段を介在させて、前記磨耗防止部材が前記他方の環状保持部に対して回転しないようにしたことを特徴とする請求項 2 記載のラチェットレンチ。

**【請求項 5】**

前記一対の環状保持部を形成したハウジングに熱処理を施し、前記他方の環状保持部の内壁に環状のへこみ部を形成し、その環状のへこみ部に前記シャンクを嵌合して前記シャンクと前記他方の環状保持部とを直接接触させることを特徴とする請求項 1 記載のラチェットレンチ。

**【請求項 6】**

前記一方の環状保持部においてその中央空間に対向する対向面に環状の溝を形成し、前記抜け防止手段を前記環状の溝に嵌合する止め輪としたことを特徴とする請求項 1 記載のラチェットレンチ。

**【請求項 7】**

前記ガイド部材と前記一方の環状保持部の内壁との間に回り止め防止手段を介在させて、前記ガイド部材が前記一方の環状保持部に対して回転しないようにしたことを特徴とする請求項 1 記載のラチェットレンチ。

**【請求項 8】**

前記ガイド部材が内側筒状部と外側筒状部とそれらの間の環状の空間部とを有し、その環状の空間部に前記スプリングを収納したことを特徴とする請求項 1 記載のラチェットレンチ。

**【請求項 9】**

前記シャンクと前記ガイド部材の間に座金を備え、前記スプリングと前記保持手段との間に座金を備えることを特徴とする請求項 1 記載のラチェットレンチ。

**【請求項 10】**

前記スプリングを環状の皿ばねまたは波ばねとしたことを特徴とする請求項 1 記載のラチェットレンチ。

**【請求項 11】**

前記保持手段が前記いずれかの環状保持部の外面より外に突出しないようにしたことを特徴とする請求項 1 記載のラチェットレンチ。

**【請求項 12】**

それぞれ中央空間を有する間隔を開けた一对の環状保持部を形成したハウジングと、それら一对の環状保持部の間に備えるものであって基部と係合部とを有するシャンクとを有するラチェットレンチにおいて、前記シャンクにフリクションを与えるスプリングとそのスプリングを保護するガイド部材とを前記シャンクに保持手段で保持して1個のシャンクアッセンブリを形成し、一方の環状保持部の中央空間から他方の環状保持部に向けて前記シャンクアッセンブリを挿入し、他方の環状保持部の内壁でその中央空間からの前記シャンクアッセンブリの抜け出しを阻止し、前記一方の環状保持部の中央空間から前記シャンクアッセンブリが挿入方向とは逆の方向に抜け出るのを防止するための抜け防止手段を前記一方の環状保持部に取り付けることを特徴とするラチェットレンチの組立て方法。

【請求項 13】

前記一对の環状保持部を形成したハウジングを生素材とし、前記他方の環状保持部の内壁に環状のへこみ部を形成し、その環状のへこみ部に前記シャンクと前記他方の環状保持部との接触を遮断するための中央に穴を形成した磨耗防止部材を介在さ、前記シャンクに突起を形成し、その突起を前記磨耗防止部材の前記穴に嵌合させるようにしたことを特徴とする請求項 12 記載のラチェットレンチの組立て方法。

【請求項 14】

前記磨耗防止部材と前記他方の環状保持部との間に回り止め防止手段を介在させて、前記磨耗防止部材が前記他方の環状保持部に対して回転しないようにしたことを特徴とする請求項 13 記載のラチェットレンチの組立て方法。

【請求項 15】

前記一对の環状保持部を形成したハウジングに熱処理を施し、前記他方の環状保持部の内壁に環状のへこみ部を形成し、その環状のへこみ部に前記シャンクを嵌合して前記シャンクと前記他方の環状保持部とを直接接触させることを特徴とする請求項 12 記載のラチェットレンチの組立て方法。

【請求項 16】

前記一方の環状保持部においてその中央空間に対向する対向面に環状の溝を形成し、前記抜け防止手段を前記環状の溝に嵌合する止め輪としたことを特徴とする請求項 12 記載のラチェットレンチの組立て方法。

【請求項 17】

前記ガイド部材と前記一方の環状保持部の内壁との間に回り止め防止手段を介在させて、前記ガイド部材が前記一方の環状保持部に対して回転しないようにしたことを特徴とする請求項 12 記載のラチェットレンチの組立て方法。

【請求項 18】

前記ガイド部材が内側筒状部と外側筒状部とそれらの間の環状の空間部とを有し、その環状の空間部に前記スプリングを収納したことを特徴とする請求項 12 記載のラチェットレンチの組立て方法。

【請求項 19】

前記シャンクと前記ガイド部材の間に座金を備え、前記スプリングと前記保持手段との間に座金を備えることを特徴とする請求項 12 記載のラチェットレンチの組立て方法。

【請求項 20】

前記スプリングを環状の皿ばねまたは波ばねとしたことを特徴とする請求項 12 記載のラチェットレンチの組立て方法。

【請求項 21】

前記保持手段が前記いずれかの環状保持部の外面より外に突出しないようにしたことを特徴とする請求項 12 記載のラチェットレンチの組立て方法。

【書類名】明細書

【発明の名称】ラチェットレンチ及びその組立て方法

【技術分野】

【0001】

本発明は、自動車や産業機械等の組立や分解の際にボルトやナットを締め付けたり緩めたりする作業に用いるラチェットレンチ及びその組立て方法に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来から、ボルトやナット等を確実にかつ迅速に締付けたり外したりするために、電動または手動のラチェットレンチが用いられている。従来既知のラチェットレンチは特許文献1や特許文献2等に示されており、その要部構造を図12乃至図14に基づいて説明する。図12及び図13に示すように、ハウジング10の先端には第一環状保持部12aと第二環状保持部12bとから成る一対の環状保持部が一体に形成されている。ハウジング10内には、図示しないモータによって回転運動並びに往復摺動運動させられるクランクシャフト14が備えられる。一対の第一環状保持部12a, 12bの間に、図14に示す揺動体16が備えられる。この揺動体16の中央には穴18が形成され、その穴18の内壁には内歯歯車20が形成されている。

【0003】

揺動体16の中央の穴18に、ボルト等を間欠的に回転させるためのシャンク22（図14）が装着される。シャンク22は、径大部24aと径小部24bとから成る基部24と、径小部24b側と連絡する立方体状の係合部26とを有する。径大部24aには、ノブ28を一体に形成した円柱状の切換ボタン30が取り付けられる。基部24の径大部24aの側面には、左右にそれぞれ複数の爪32を形成した2個の翼部材34を揺動自在に備えられる。基部24の径大部24aを揺動体16の中央の穴18に挿入して、翼部材34の爪32を揺動体16の内歯歯車20と噛み合わせる。

【0004】

図12乃至図14に示すラチェットレンチでは、図示しないモータが駆動することによって、クランクシャフト14が回転運動並びに往復摺動運動し、それに伴って揺動体16が往復揺動し、揺動体16と噛み合うシャンク22が間欠的に回転する。シャンク22の係合部26に図13に示すソケット36の一端を係合させ、このソケット36の他端に図示しないボルト等を係合させることによって、ボルト等の締め付けや外しを間欠的に行うことができる。

【0005】

シャンク22を第一環状保持部12aと第二環状保持部12bとの間に取付ける場合には、先ず基部24（径大部24a）の上面38（図14）を先頭にして、一方の第一環状保持部12aの中央の空間から他方の第二環状保持部12bに向けてシャンク22を挿入し、基部24の上面38を第二環状保持部12bの内壁に設けた段部40と当接係合させる。

【0006】

次に、係合部26から基部24の径小部24bに向けて、座金42とスプリングとしての皿ばね44と環状のガイドブッシュ46とを順に挿入し、座金42を径大部24aと径小部24bとの境目の段部24c（図12）に接触させ、第一環状保持部12aに止め輪48を固定する。これによって、基部24の段部24cと止め輪48との間に、座金42と皿ばね44とガイドブッシュ46とが挟持される。

【0007】

スプリングとしての皿ばね44は、シャンク22にフリクションを与える目的と、一対の第一環状保持部12a, 12bの間でシャンク22にガタつきが生じないことを目的とするものである。スプリングとしての皿ばね44は、その両側に接触するものを互いに離れる方向に付勢するので、基部24の段部24cと止め輪48とを互いに離れる方向に付勢する。シャンク22（基部24）は第二環状保持部12bに接触しており、止め輪48

は第一環状保持部 12 a に固定されているので、皿ばね 44 は第一環状保持部 12 a と第二環状保持部 12 b とにそれぞれ反対側に離れる方向の力を加える。

【0008】

皿ばね 44 によって、第一環状保持部 12 a と第二環状保持部 12 b とに反対側方向の力が加えられるので、長期間の使用によって第一環状保持部 12 a と第二環状保持部 12 b との間の距離が開き、シャンク 22 にかかるフリクションが低下するという欠点があった。

【0009】

この欠点を克服するラチェットレンチが特許文献 3 に示されており、その要部構造を図 15 に基づいて説明する。シャンク 22 の基部 24 には係合部 26 側の端部にフランジ 50 が形成され、基部 24 における係合部 26 と反対側の端付近の外周に溝 52 が形成される。シャンク 22 を第一環状保持部 12 a と第二環状保持部 12 b の間に取り付ける場合は、基部 24 の溝 52 を形成した側を先頭にして、座金 54 に基部 24 を挿通させ、その座金 54 をフランジ 50 と接触させる。その後、溝 52 を形成した側を先頭にして、シャンク 22 の基部 24 を第一環状保持部 12 a の外側から第二環状保持部 12 b 側に向けて挿入する。第一環状保持部 12 a の外側表面に座金 54 (フランジ 50) 接触した状態で、基部 24 の挿入が停止する。基部 24 の挿入が停止した状態では、溝 52 の位置は第二環状保持部 12 b より外側に突出する。その後、第二環状保持部 12 b の外側から基部 23 に座金 56 を挿通させ、基部 24 の溝 52 に止め輪 58 を取付ける。なお、シャンク 22 にフリクションを与える付勢手段についての説明は、ここでは省略する。

【0010】

図 15 に示すラチェットレンチでは、シャンク 22 の基部 24 に形成したフランジ 50 と基部 24 に取り付けた止め輪 58 とで、第一環状保持部 12 a の外側表面と第二環状保持部 12 b の外側表面とを挟持している。この結果、第一環状保持部 12 a と第二環状保持部 12 b とが互いに開くことが防止され、シャンク 22 働くフリクションの低下を防止している。

【0011】

【特許文献 1】特開 2001-30179 号公報 (第 2-3 頁、図 14-16)

【特許文献 2】米国特許第 5, 537, 899 (第 4-5 欄、Fig. 3-4)

【特許文献 3】米国特許第 6, 490, 953 (第 4-5 欄、Fig. 9)

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0012】

図 15 に示すラチェットレンチでは、一对の第一環状保持部 12 a, 12 b 第一環状保持部 12 a のそれぞれの外側にそれらの開きを防止する挟持手段を備えることによって、一对の第一環状保持部 12 a, 12 b の間が開いてフリクションが低下するのを防止している。しかし、一对の第一環状保持部 12 a, 12 b の外側にそれらの開きを防止する挟持手段を備えるものでは、シャンク 22 にかかるフリクションが大きくなり過ぎる。この結果、操作開始時の抵抗によってトルクが上がらないという欠点が発生していた。このため、操作開始時に操作レバーを断続作動させて、しばらくしてから所望のトルクを出すようにしている。このように、一对の第一環状保持部 12 a, 12 b の間の開きを防止する手段を備えたラチェットレンチでは、操作開始時にはトルクが上がらず、作業効率が悪いという欠点があった。

【0013】

本発明は、一对の環状保持部の間の開きに関係がなく、シャンクにかかるフリクションを常に一定に確保することができるラチェットレンチを提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0014】

本発明のラチェットレンチは、それぞれ中央空間を有する一对の間隔を開けた環状保持

部を形成したハウジングと、それら一对の環状保持部の間に備えるものであって基部と係合部とを有するシャンクと、前記シャンクにフリクションを与えるためのスプリングとを有するラチェットレンチにおいて、前記スプリングとそのスプリングを保護するガイド部材とを前記シャンクに保持手段で保持して1個のシャンクアッセンブリを形成し、他方の前記環状保持部の壁によってその中央空間から前記シャンクアッセンブリが外に抜け出るのを阻止し、一方の前記環状保持部にその中央空間から前記シャンクアッセンブリが外に抜け出るのを防止するための抜け防止手段を取り付けるようにしたものである。

#### 【0015】

本発明のラチェットレンチは更に、前記一对の環状保持部を形成したハウジングを生素材とし、前記他方の環状保持部の内壁に環状のへこみ部を形成し、その環状のへこみ部に前記シャンクと前記他方の環状保持部との接触を遮断するための磨耗防止部材を介在させるようにしたものである。本発明は、前記磨耗防止部材を中央に穴を形成した環状の形状とし、前記シャンクに突起を形成し、その突起を前記磨耗防止部材の前記穴に嵌合させるようにしたものである。本発明は、前記磨耗防止部材と前記他方の環状保持部との間に回り止め防止手段を介在させて、前記磨耗防止部材が前記他方の環状保持部に対して回転しないようにしたことを特徴とする請求項2記載のラチェットレンチ。本発明は、前記一对の環状保持部を形成したハウジングに熱処理を施し、前記他方の環状保持部の内壁に環状のへこみ部を形成し、その環状のへこみ部に前記シャンクを嵌合して前記シャンクと前記他方の環状保持部とを直接接触させるようにしたものである。本発明は、前記一方の環状保持部においてその中央空間に対向する対向面に環状の溝を形成し、前記抜け防止手段を前記環状の溝に嵌合する止め輪としたものである。本発明は、前記ガイド部材と前記一方の環状保持部の内壁との間に回り止め防止手段を介在させて、前記ガイド部材が前記一方の環状保持部に対して回転しないようにしたものである。本発明は、前記ガイド部材が内側筒状部と外側筒状部とそれらの間の環状の空間部とを有し、その環状の空間部に前記スプリングを収納するようにしたものである。本発明は、前記シャンクと前記ガイド部材の間に座金を備え、前記スプリングと前記保持手段との間に座金を備えるようにしたものである。本発明は、前記スプリングを環状の皿ばねまたは波ばねとしたものである。本発明は、前記保持手段が前記いずれかの環状保持部の外面より外に突出しないようにしたものである。

#### 【0016】

本発明のラチェットレンチの組立て方法は、それぞれ中央空間を有する間隔を開けた一对の環状保持部を形成したハウジングと、それら一对の環状保持部の間に備えるものであって基部と係合部とを有するシャンクとを有するラチェットレンチにおいて、前記シャンクにフリクションを与えるスプリングとそのスプリングを保護するガイド部材とを前記シャンクに保持手段で保持して1個のシャンクアッセンブリを形成し、一方の環状保持部の中央空間から他方の環状保持部に向けて前記シャンクアッセンブリを挿入し、他方の環状保持部の内壁でその中央空間からの前記シャンクアッセンブリの抜け出しを阻止し、前記一方の環状保持部の中央空間から前記シャンクアッセンブリが挿入方向とは逆の方向に抜け出るのを防止するための抜け防止手段を前記一方の環状保持部に取り付けるようにしたものである。

#### 【0017】

本発明のラチェットレンチの組立て方法は更に、前記一对の環状保持部を形成したハウジングを生素材とし、前記他方の環状保持部の内壁に環状のへこみ部を形成し、その環状のへこみ部に前記シャンクと前記他方の環状保持部との接触を遮断するための中央に穴を形成した磨耗防止部材を介在さ、前記シャンクに突起を形成し、その突起を前記磨耗防止部材の前記穴に嵌合させるようにしたものである。本発明は、前記磨耗防止部材と前記他方の環状保持部との間に回り止め防止手段を介在させて、前記磨耗防止部材が前記他方の環状保持部に対して回転しないようにしたものである。本発明は、前記一对の環状保持部を形成したハウジングに熱処理を施し、前記他方の環状保持部の内壁に環状のへこみ部を形成し、その環状のへこみ部に前記シャンクを嵌合して前記シャンクと前記他方の環状保

持部とを直接接触させるようにしたものである。本発明は、前記一方の環状保持部においてその中央空間に対向する対向面に環状の溝を形成し、前記抜け防止手段を前記環状の溝に嵌合する止め輪としたものである。本発明は、前記ガイド部材と前記一方の環状保持部の内壁との間に回り止め防止手段を介在させて、前記ガイド部材が前記一方の環状保持部に対して回転しないようにしたものである。本発明は、前記ガイド部材が内側筒状部と外側筒状部とそれらの間の環状の空間部とを有し、その環状の空間部に前記スプリングを収納するようにしたものである。本発明は、前記シャンクと前記ガイド部材の間に座金を備え、前記スプリングと前記保持手段との間に座金を備えるようにしたものである。本発明は、前記スプリングを環状の皿ばねまたは波ばねとしたものである。本発明は、前記保持手段が前記いずれかの環状保持部の外面より外に突出しないようにしたものである。

#### 【0018】

シャンクにフリクションを与えるためのスプリングとそのスプリングを保護するガイド部材と座金とをシャンクに保持手段で取り付けて1個の組立体であるシャンクアッセンブリを作る。スプリングの押圧力は、シャンクアッセンブリのシャンクと保持手段にのみ及んで、シャンクアッセンブリの外部に及ばないようにする。これによって、スプリングの押圧力は一对の環状保持部に及ぶことがなくなり、従来のような一对の環状保持部に互いに外側に開く方向の力がかからない。また、スプリングの押圧力は、シャンクアッセンブリの内部に収められて外部の影響がないので、シャンクに及ぼすフリクションは一定となり、操作開始時にトルクがかからないという不具合を解消することができる。

#### 【0019】

シャンクアッセンブリを一方の環状保持部の中央空間から他方の環状保持部に向けて挿入し、他方の環状保持部の内壁でシャンクアッセンブリを当接保持する。その後、一方の環状保持部に止め輪を取り付けることで、その中央空間からシャンクアッセンブリが抜け出るのを阻止する。このように、ラチェットレンチの組立ては、シャンクアッセンブリの挿入と、一方の環状保持部への止め輪の取り付けだけの簡単な作業であるので、作業時間を短縮してコストダウンを図ることができる。

#### 【発明の効果】

#### 【0020】

以上のように、本発明のラチェットレンチによれば、シャンクに摩擦力発生手段を保持手段で取り付けることで1個のシャンクアッセンブリを作り、そのシャンクアッセンブリを一对の環状保持部の間に外れないように取り付けようにしたものである。本発明は、シャンクアッセンブリの内部にシャンクにフリクションを与えるスプリングを備えるので、フリクションは操作開始時に拘わらず常に一定であり、操作開始時にトルクが弱いという従来の欠点を解消することができる。また、スプリングのばね力が一对の環状保持部に及ばないので、従来発生していた一对の環状保持部の間の開きを防止できるだけでなく、一对の環状保持部の距離を考慮しなくて良いため、設計の際の自由度を得ることができる。

#### 【0021】

本発明のラチェットレンチの組立方法によれば、シャンクやスプリング等を組立てたシャンクアッセンブリを、一方の環状保持部の中央空間から他方の環状保持部に向けて挿入し、その後、一方の環状保持部に抜け防止用の止め輪を取り付けるだけの簡単な作業あり、作業時間を短縮して作業コストを低減することができる。

#### 【発明を実施するための最良の形態】

#### 【0022】

本発明のラチェットレンチは、一对の環状保持部が開いてもシャンクに及ぶフリクションが一定となるものである。次に本発明を図面に基づいて説明する。

#### 【実施例1】

#### 【0023】

図1は本発明に係るラチェットレンチの要部の分解斜視図、図2は図1の反対側から見た分解斜視図、図3は図1並びに図2を組立てた状態の要部断面図、図4は図3のA-A



線断面図である。図 1 乃至図 4 において、図 1 2 乃至図 1 4 と同一符号は同一部材を示す。この第一実施形態においては、第一環状保持部 1 2 a と第二環状保持部 1 2 b を含むハウジング 1 0 は、焼き入れや焼きなまし等の熱処理を施さない生素材を用いる。第一環状保持部 1 2 a にはその中央に第一中央空間 1 3 a が形成され、第二環状保持部 1 2 b にはその中央に第二中央空間 1 3 b が形成される。第二環状保持部 1 2 b の内壁には環状のへこみ部 6 0 を形成し、そのへこみ部 6 0 の縁の一箇所にほぼ半円筒形状の嵌合用へこみ部 6 2 を形成する（図 2）。環状のへこみ部 6 0 に磨耗防止部材としての第二ガイドブッシュ 6 4 を嵌合装着する。この第二ガイドブッシュ 6 4 は、中央に穴 6 6 を設けた環状の形状をしており、その第二ガイドブッシュ 6 4 の外周側面に上下に至るほぼ半円筒形状の嵌合用へこみ部 6 8 を形成する。第二環状保持部 1 2 b の嵌合用へこみ部 6 2 とガイドブッシュ 6 4 の嵌合用へこみ部 6 8 とに回り止め防止手段としての回り止めピン 7 0 を嵌合する。これによって、第二ガイドブッシュ 6 4 は第二環状保持部 1 2 b に対して回転しない状態に保持される。

#### 【0024】

シャンク 2 2 A は、基部 2 4 と係合部 2 6 と爪 3 2 を備えた翼部材 3 4 とを有し、基部 2 4 は、翼部材 3 4 を備える径大部 2 4 a と、その径大部 2 4 a と前記係合部 2 6 とを連絡する径小部 2 4 b とから成り、それら径大部 2 4 a と径小部 2 4 b との境界は段部 2 4 c となっている。基部 2 4 の径大部 2 4 a の上面 3 8 の中央に円筒状の突起 7 2 が一体に形成され、基部 2 4 の径小部 2 4 b における係合部 2 6 に近い位置に軸方向に対して直角方向の貫通穴 7 4 が形成される。

#### 【0025】

シャンク 2 2 A において、係合部 2 6 から基部 2 4 の径小部 2 4 b に向けて、磨耗防止部材としての環状の第一座金 7 6 と、環状の空間部 7 8 と中央の貫通穴 8 0 とを有するガイド部材としての第一ガイドブッシュ 8 2 と、前記空間部 7 8 内に収納されるものであってスプリングとしての 1 個または複数個の皿ばね 8 4 と、磨耗防止部材としての環状の第二座金 8 6 と、磨耗防止部材としての環状の第三座金 8 8 とを挿入し、保持手段としての止めピン 9 0 をシャンク 2 2 A の基部 2 4 に設けた貫通穴 7 4 に挿入固定する。ガイド部材としての第一ガイドブッシュ 8 2 は、スプリングとしての皿ばね 8 4 がシャンク 2 2 A と共に回転するのを防止するためのものであり、磨耗防止部材であることが望ましい。第一ガイドブッシュ 8 2 と前記第二ガイドブッシュ 6 4 はシャンク 2 2 A を支持するので、焼き入れ等の熱処理を施すのが望ましい。

#### 【0026】

止めピン 9 0 をシャンク 2 2 A の基部 2 4 の貫通穴 7 4 に挿入固定した状態においては、第一座金 7 6 と、第一ガイドブッシュ 8 2 と、皿ばね 8 4 と、第二座金 8 6 と、第三座金 8 8 とは、基部 2 4 の段部 2 4 c と止めピン 9 0 との間に挟持される。シャンク 2 2 A と止めピン 9 0 との間に挟持される“第一座金 7 6 と第一ガイドブッシュ 8 2 と 1 個または複数個の皿ばね 8 4 と第二座金 8 6 と第三座金 8 8 ”を摩擦力発生手段 9 2 とする。また、シャンク 2 2 A に摩擦力発生手段 9 2 を止めピン 9 0 で外れないように保持した組立体をシャンクアッセンブリ 9 4 とする。

#### 【0027】

スプリングとしての皿ばね 8 4 は、その両側に接触するものを互いに離れる方向に付勢する働きをするものである。この皿ばね 8 4 の付勢力が最終的に受け止める箇所は、シャンク 2 2 A の基部 2 4（段部 2 4 c）と、シャンク 2 2 A の基部 2 4 に挿入固定した止めピン 9 0 とである。即ち、皿ばね 8 4 による力は、組立体であるシャンクアッセンブリ 9 4 の内部に及ぶが、シャンクアッセンブリ 9 4 の外部には及ばない。なお、シャンク 2 2 A にフリクションを与えるためのスプリングとして、1 個または複数個の皿ばね 8 4 を用いたが、スプリングは皿ばね 8 4 に限るものではない。なお、スプリングとして皿ばねや波ばね等のリング状のばねを用いることによって、シャンクアッセンブリ 9 4 高さを低くでき、しかも第一ガイドブッシュ 8 2 の空間部 7 8 内に容易に収納することができる。

#### 【0028】

図2に示すように、前記第一ガイドブッシュ82は、内側筒状部96と外側筒状部98とそれら内側筒状部96の一端と外側筒状部98の一端とを連絡する環状の閉鎖端面100とから成る。内側筒状部96の内側に前記貫通穴80が形成され、内側筒状部96の外側と外側筒状部98の内側と閉鎖端面100の一方の面とによって前記環状の空間部78が形成される。前記貫通穴80にはシャンク22Aの基部24の径小部24bが挿入され、前記環状の空間部78に1個または複数の皿ばね84が収納される。前記外側筒状部98の挿入後端側の自由端面102の一箇所に切欠104が形成される。前記第二座金86の外縁には突出舌部106が一体に形成され、第二座金86の突出舌部106を第一ガイドブッシュ82の切欠104に係合させる。この係合によって、第二座金86は内部に皿ばね84を収納する空間部78の蓋となる。この第二座金86は第一ガイドブッシュ82に対して回転することはない。

#### 【0029】

第一ガイドブッシュ82の外側筒状部98の一箇所には半円筒形状の嵌合用へこみ部108が形成されている。第一環状保持部12aの第一中央空間13aに対面する対向壁110にも半円筒形状の空間である嵌合用へこみ部112（図1）が形成される。第一環状保持部12aの対向壁110には更に環状の溝116が形成される。

#### 【0030】

シャンクアッセンブリ94を第一環状保持部12aと第二環状保持部12bとの間に取り付ける場合には、シャンク22Aの突起72側を先頭に係合部26を後ろにして、シャンクアッセンブリ94を第一環状保持部12a（組立完成状態では係合部26に近い位置のもの）から第二環状保持部12b（組立完成状態では係合部26から遠い位置のもの）に向けて挿入し、シャンク22Aの突起72を第二ガイドブッシュ64の穴66に嵌合させる。シャンク22Aの突起72を第二ガイドブッシュ64の穴66に嵌合させた状態では、シャンク22Aは第二ガイドブッシュ64とは接触するが、第二環状保持部12bとは直接接触しないようにする。この状態では、シャンク22Aは第二ガイドブッシュ64に対して回転自在な状態となる。

#### 【0031】

シャンクアッセンブリ94を第一環状保持部12aから第二環状保持部12bに向けて挿入する前に、第一ガイドブッシュ82の嵌合用へこみ部108に回り止め防止手段としての回り止めピン114を予め嵌合しておく。そして、シャンクアッセンブリ94を挿入する際に、その回り止めピン114を第一環状保持部12aの嵌合用へこみ部112に嵌合させる。これによって、第一ガイドブッシュ82（皿ばね84及び第二座金86）は第一環状保持部12aに対して回転することなく保持される。

#### 【0032】

シャンクアッセンブリ94における基部24の上面38を第二ガイドブッシュ64に押し付けた状態で、第一環状保持部12aの溝116に抜け防止手段としての止め輪118を取付ける。第一環状保持部12aの溝116に止め輪118を取付けた状態においては、図3及び図4に示すように、第一ガイドブッシュ82の外側筒状部98の自由端面102が止め輪118の側面と接触して、シャンクアッセンブリ94が第一環状保持部12aの中央空間13aから外に抜け出ることにはない。即ち、シャンクアッセンブリ94は、一方は第二ガイドブッシュ64を介して第二環状保持部12bの内壁に当接保持された状態（中央空間13bから外に抜け出ることが阻止された状態）となっており、他方は第一環状保持部12aの溝116に取り付けた止め輪118によって、第一環状保持部12aの中央空間13aから外に抜け出ないようにしている。これによって、シャンクアッセンブリ94は、環状保持部12aと第二環状保持部12bとの間で外れない状態で保持される。

。

#### 【0033】

第一環状保持部12aの溝116に止め輪118を取付けた状態においては、第一ガイドブッシュ82の嵌合用へこみ部108と第一環状保持部12aの嵌合用へこみ部112とに回り止めピン114を嵌合してあるので、第一ガイドブッシュ82（皿ばね84と第

二座金86)は回転することはない。この第一ガイドブッシュ82や第一環状保持部12aに対して、シャンク22Aとそれに固定された止めピン90は、第一座金76と第三座金88を介して回転する。このシャンク22Aと止めピン90の回転の際に、皿ばね84による力が第一座金76及び第三座金88を介してシャンク22Aと止めピン90にフリクションとして及ぶ。第一環状保持部12aの溝116に止め輪118を取付けた状態においては、シャンクアッセンブリ94の止めピン90が第一環状保持部12aの外表面から外側に飛び出さないように設定する。

#### 【0034】

以上のように構成した本発明は、シャンク22Aに摩擦力発生手段92を止めピン90で取り付けて、組立体としてのシャンクアッセンブリ94を作り、そのシャンクアッセンブリ94を第一環状保持部12aと第二環状保持部12bの間に外れないように取り付けるようにしたものである。この摩擦力発生手段92は、第一環状保持部12aに回り止めピン114によって取り付けられているので、摩擦力発生手段92は第一環状保持部12aや第二環状保持部12bに対して回転しない状態であり、シャンク22Aと止めピン90が第一環状保持部12aや第二環状保持部12bに対して回転する。

#### 【0035】

本発明では、1個の組立体であるシャンクアッセンブリ94の内部において、シャンク22Aにフリクションを与えるスプリング(皿ばね84)を備えているので、スプリングによる押圧力を外部に及ぼすことはない。即ち、本発明では、フリクションは常に一定となるので、操作開始時にトルクが弱いという従来の欠点を解消することができる。本発明はまた、第一環状保持部12aと第二環状保持部12bとに互いに開く方向に力がかからないものであり、第一環状保持部12aと第二環状保持部12bとの間の距離にフリクションが影響されるものではない。このため、第一環状保持部12aと第二環状保持部12bとの間の距離を考慮しなくても良く、設計上の自由度が得られる。

#### 【0036】

本発明では、第二ガイドブッシュ64の穴66の内壁と、第一ガイドブッシュ82と前記第二ガイドブッシュ64の内側筒状部96の内壁とでシャンク22Aを支持する。また、回転するシャンク22Aと回転しない第二ガイドブッシュ64との間に第一座金76を介在させる。このため、磨耗が生じて交換する部材は、第二ガイドブッシュ64と第一ガイドブッシュ82と第一座金76のみとすることができ、交換が簡単で、しかも交換部品のコストを安くすることができる。

#### 【0037】

本発明では、ラチェットレンチを組立てる場合に、一方の第一環状保持部12aの中央空間13aから他方の第二環状保持部12bに向けてシャンクアッセンブリ94を挿入し、他方の第二環状保持部12bの内壁に直接的または間接的にシャンクアッセンブリ94を保持する(中央空間13bを通して内側から外側に抜け出ない状態にする)。その後、一方の第一環状保持部12aの中央空間13aからシャンクアッセンブリ94の挿入方向の後ろ側が外側へ抜け出ないように、第一環状保持部12aの溝116に止め輪118を取り付ける。この組立方法では、シャンクアッセンブリ94を一方の第一環状保持部12aから他方の第二環状保持部12bに向けて挿入した後、一方の第一環状保持部12aに止め輪118を取り付けるだけの作業なので、組立て作業を簡単に短時間で行うことができる。

#### 【0038】

第一実施形態においては、第一環状保持部12aと第二環状保持部12bを含むハウジング10に、熱処理をしない生素材を用いる。熱処理をしない生素材を用いることによって、熱処理をした素材に比べて、高い寸法精度を出すことができる。

#### 【0039】

なお、摩擦力発生手段92は、第一座金76と、第一ガイドブッシュ82と、皿ばね84と、第二座金86と、第三座金88とから構成すると前述した。しかし摩擦力発生手段92としては、第一環状保持部12aや第二環状保持部12bに対する回転を防止すると

共に皿ばね 84 が回転するのを防止するための第一ガイドブッシュ 82 と、シャンク 22 A にフリクションを与えるスプリングとしての皿ばね 84 を含むものであれば良い。また、第一ガイドブッシュ 82 に空間部 78 を設け、その空間部 78 に 1 個またはそれ以上の皿ばね 84 を収容し、その空間部 78 を第二座金 86 で閉じるのが望ましい。摩擦力発生手段 92 には、第一ガイドブッシュ 82 とシャンク 22 A との間の第一座金 76 と、皿ばね 84 (第二座金 86) と止めピン 90 との間の第三座金 88 とを含むことが望ましい。

#### 【実施例 2】

##### 【0040】

次に、本発明の第二実施形態を図 5 並びに図 6 に基づいて説明する。

図 5 並びに図 6 において、図 1 乃至図 4 と同一符号は同一部材を示す。この第二実施形態においては、第一環状保持部 12 a と第二環状保持部 12 b とを含むハウジング 10 は、焼き入れや焼きなまし等の熱処理を施したものを使用する。第一環状保持部 12 a と第二環状保持部 12 b に熱処理を施したものをを用いるため、シャンク 22 B の上面 38 を直接第二環状保持部 12 b に接触させても良い。このため、第一実施形態で使用した第二ガイドブッシュ 64 を省略する。第二ガイドブッシュ 64 を省略したため、第一環状保持部 12 a と第二環状保持部 12 b との間隔に合わせるため、シャンク 22 B ではその基部 24 の高さをシャンク 22 A の基部 24 の高さより高くする。この第二実施形態と第一実施形態との相違は、ハウジング 10 の熱処理の有無と、シャンク 22 B を直接第二環状保持部 12 b に接触させるか、シャンク 22 A を第二ガイドブッシュ 64 を介して第二環状保持部 12 b に接触させるかとの相違だけである。従って、第二実施形態は、ハウジング 10 の熱処理に基づく効果の相違を除いて、第一実施形態と同様の効果を得るものである。

##### 【0041】

この第二実施形態では、第二ガイドブッシュ 64 を省略することができるので、シャンク 22 B の基部 24 の高さをシャンク 22 A の基部 24 の高さより低くする (シャンク 22 A の突起 72 の高さ分だけ低くする) ことができる。この結果、第一環状保持部 12 a と第二環状保持部 12 b との間隔を狭くしてハウジング 10 を小型化し、ラチェットレンチ全体の重量を軽くすることが可能になる。

#### 【実施例 3】

##### 【0042】

次に、本発明の第三実施形態を図 7 乃至図 9 に基づいて説明する。図 7 乃至図 9 において、図 1 乃至図 4 と同一符号は同一部材を示す。この第三実施形態では、第一実施形態と同様に、第一環状保持部 12 a と第二環状保持部 12 b を含むハウジング 10 には、熱処理をしない生素材を用いる。シャンクアッセンブリ 94 には、第一実施形態と同様のシャンク 22 A を使用する。この第三実施形態では、シャンクアッセンブリ 94 を第二環状保持部 12 b の中央空間 13 b 側から第一環状保持部 12 a 側に向けて挿入し、その際、係合部 26 を先頭にしてシャンクアッセンブリ 94 を挿入するものである。

##### 【0043】

図 7 に示すように、第一環状保持部 12 a の内壁には環状のへこみ部 120 が形成され、そのへこみ部 120 の縁の一箇所にほぼ半円筒形状の嵌合用へこみ部 122 が形成される。この第三実施形態においても、第一実施形態と同様に、第一座金 76 と第一ガイドブッシュ 82 と 1 個または複数の皿ばね 84 と第二座金 86 と第三座金 88 とから成る摩擦力発生手段 92 を備える。第二環状保持部 12 b においては、その第二中央空間 13 b に対向する対向壁 124 に環状の溝 126 が形成される。

##### 【0044】

シャンクアッセンブリ 94 を第一環状保持部 12 a と第二環状保持部 12 b との間に取付ける場合には、係合部 26 側を先頭にして、シャンクアッセンブリ 94 を第二環状保持部 12 b の中央空間 13 b から第一環状保持部 12 a に向けて挿入し、図 8 及び図 9 に示すように、摩擦力発生手段 92 の第一ガイドブッシュ 82 の自由端面 102 を第一環状保持部 12 a の環状のへこみ部 120 に当接させる。この第一ガイドブッシュ 82 が第一環状保持部 12 a の環状のへこみ部 120 に当接した状態では、第一ガイドブッシュ 82 は第

一環状保持部 12a の環状のへこみ部 120 に嵌合保持された状態となる。この第一環状保持部 12a には、シャンク 22 を直接接触させないようにする。

【0045】

シャンクアッセンブリ 94 を第二環状保持部 12b から第一環状保持部 12a に向けて挿入する前に、第一環状保持部 12a の嵌合用へこみ部 122 に回り止めピン 114 を装着しておき、シャンクアッセンブリ 94 を挿入した際に第一ガイドブッシュ 82 の嵌合用へこみ部 108 を回り止めピン 114 に嵌合させる。これによって、第一ガイドブッシュ 82 は第一環状保持部 12a に対して回転することなく保持され、かつシャンク 22A は第一ガイドブッシュ 82 並びに第一環状保持部 12a に対して回転自在な状態になる。

【0046】

第一ガイドブッシュ 82 の自由端面 102 を第一環状保持部 12a のへこみ部 120 に当接させた状態で、シャンク 22A の上面 38 の上に第二ガイドブッシュ 64 を載せ、シャンク 22 の上部の突起 72 や第二ガイドブッシュ 64 の上に第四座金 128 を載せる。第二ガイドブッシュ 64 の穴 66 と基部 24 の上面 38 の突起 72 とを嵌合させる。第二ガイドブッシュ 64 や第四座金 128 は、第二環状保持部 12b の対向壁 124 によって横方向への移動は阻止される。その後、第二環状保持部 12b の溝 126 に抜け防止手段としての止め輪 130 を取付ける。第二環状保持部 12b の溝 126 に止め輪 130 を取付けた状態（図 8）においては、シャンクアッセンブリ 94 が第二環状保持部 12b の中央空間 13b から外側に抜け出すことは、止め輪 130 によって阻止される。第二環状保持部 12b の溝 126 に止め輪 130 を取付けた状態においては、シャンク 22A は止め輪 130 や第二環状保持部 12b に対して回転自在な状態となっている。

【0047】

この第三実施形態においても第一実施形態と同様、シャンクアッセンブリ 94 はその内部にシャンク 22A にフリクションを与えるスプリングを有するものである。また、摩擦力発生手段 92 は、第一環状保持部 12a に回り止めピン 114 によって取り付けられているため、摩擦力発生手段 92 は第一環状保持部 12a や第二環状保持部 12b に対して回転しないが、シャンク 22A と止めピン 90 は第一環状保持部 12a や第二環状保持部 12b に対して回転するものである。このように、第三実施形態は第一実施形態と同様の働きをするものであり、従って第三実施形態は第一実施形態と同様の効果を有するものである。

【実施例 4】

【0048】

次に、本発明の第四実施形態を図 10 並びに図 11 に基づいて説明する。

図 10 並びに図 11 において、図 1 乃至図 9 と同一符号は同一部材を示す。この第四実施形態が第三実施形態と主に相違する点は、第一環状保持部 12a と第二環状保持部 12b とを含むハウジング 10 は、焼き入れや焼きなまし等の熱処理を施したものである。また、シャンクは第二実施形態で使用したシャンク 22B を使用する。第一環状保持部 12a と第二環状保持部 12b に熱処理を施したものをを用いるため、第三実施形態で使用した第二ガイドブッシュ 64 を省略し、シャンク 22B の上面 38 を第四座金 128 を介して第二環状保持部 12b に対向させる。この第四座金 128 は止め輪 130 との接触面積を広くするものである。この第四実施形態と第三実施形態との相違は、ハウジング 10 の熱処理の有無と、第二ガイドブッシュ 64 を備えるか否かの相違だけである。従って、第四実施形態は、熱処理の効果の相違を除いて、第三実施形態と同様の効果を得るものである。この第四実施形態は、第二実施形態と同様に第二ガイドブッシュ 64 を省略することで、シャンク 22B の基部 24 の高さを低くして、第一環状保持部 12a と第二環状保持部 12b との間隔を狭くし、ハウジング 10 の小型化によるラチェットレンチ全体の小型化と重量化を図ることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0049】

【図 1】 本発明に係るラチェットレンチの一実施形態を示す分解斜視図である。

- 【図 2】 図 1 の反対側から見た分解斜視図である。  
【図 3】 図 1 並びに図 2 のラチェットレンチを組立てた状態を示す断面図である。  
【図 4】 図 3 の A-A 線断面図である。  
【図 5】 本発明に係るラチェットレンチの他の実施形態を示す要部断面図である。  
【図 6】 図 5 に用いるシャンクを示す斜視図である。  
【図 7】 本発明に係るラチェットレンチのその他の実施形態を示す分解斜視図である。

- 。【図 8】 図 7 のラチェットレンチを組立てた状態を示す断面図である。  
【図 9】 図 7 のラチェットレンチの組立て状態を示す部分断面図である。  
【図 10】 本発明に係るラチェットレンチの更に他の実施形態を示す分解斜視図である。

- 【図 11】 図 10 のラチェットレンチを組立てた状態の要部断面図である。  
【図 12】 従来のラチェットレンチを示す要部断面図である。  
【図 13】 従来のラチェットレンチにソケットを取付けた状態を示す斜視図である。  
【図 14】 図 12 に用いる揺動体とシャンクを示す斜視図である。  
【図 15】 従来の他のシャンクを示す分解斜視図である。

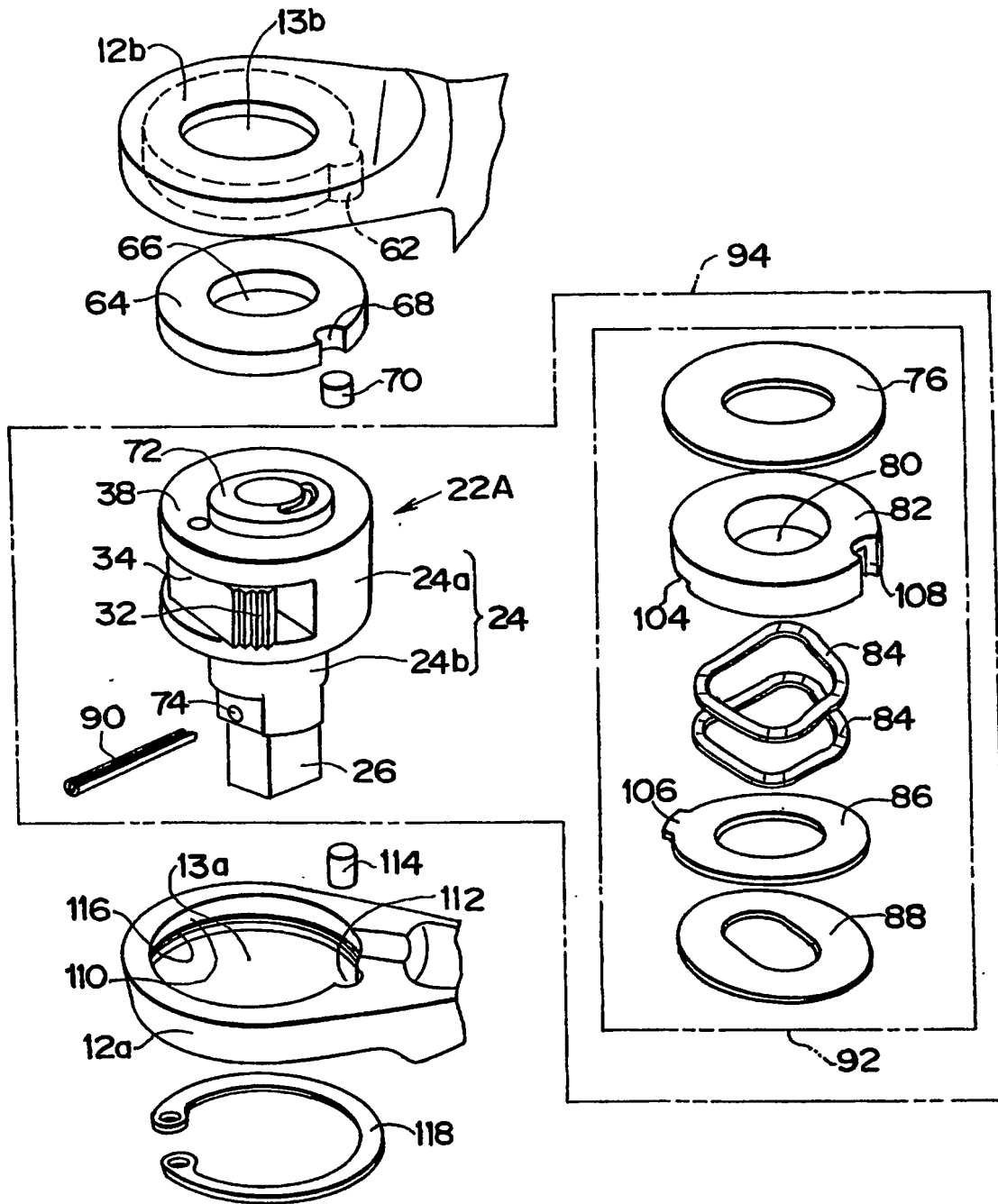
【符号の説明】

【0050】

- 10   ハウジング  
12a   第一環状保持部  
12b   第二環状保持部  
13a   第一中央空間  
13b   第二中央空間  
22A   シャンク  
22B   シャンク  
24   基部  
26   係合部  
38   上面  
60   環状のへこみ部  
62   嵌合用へこみ部  
64   第二ガイドプッシュ  
66   穴  
68   嵌合用へこみ部  
70   回り止めピン  
72   突起  
74   貫通穴  
76   第一座金  
78   空間部  
82   第一ガイドプッシュ  
84   皿ばね  
86   第二座金  
88   第三座金  
90   止めピン  
92   摩擦力発生手段  
94   シャンクアッセンブリ  
96   内側筒状部  
98   外側筒状部  
102   自由端面  
108   嵌合用へこみ部  
110   対向壁

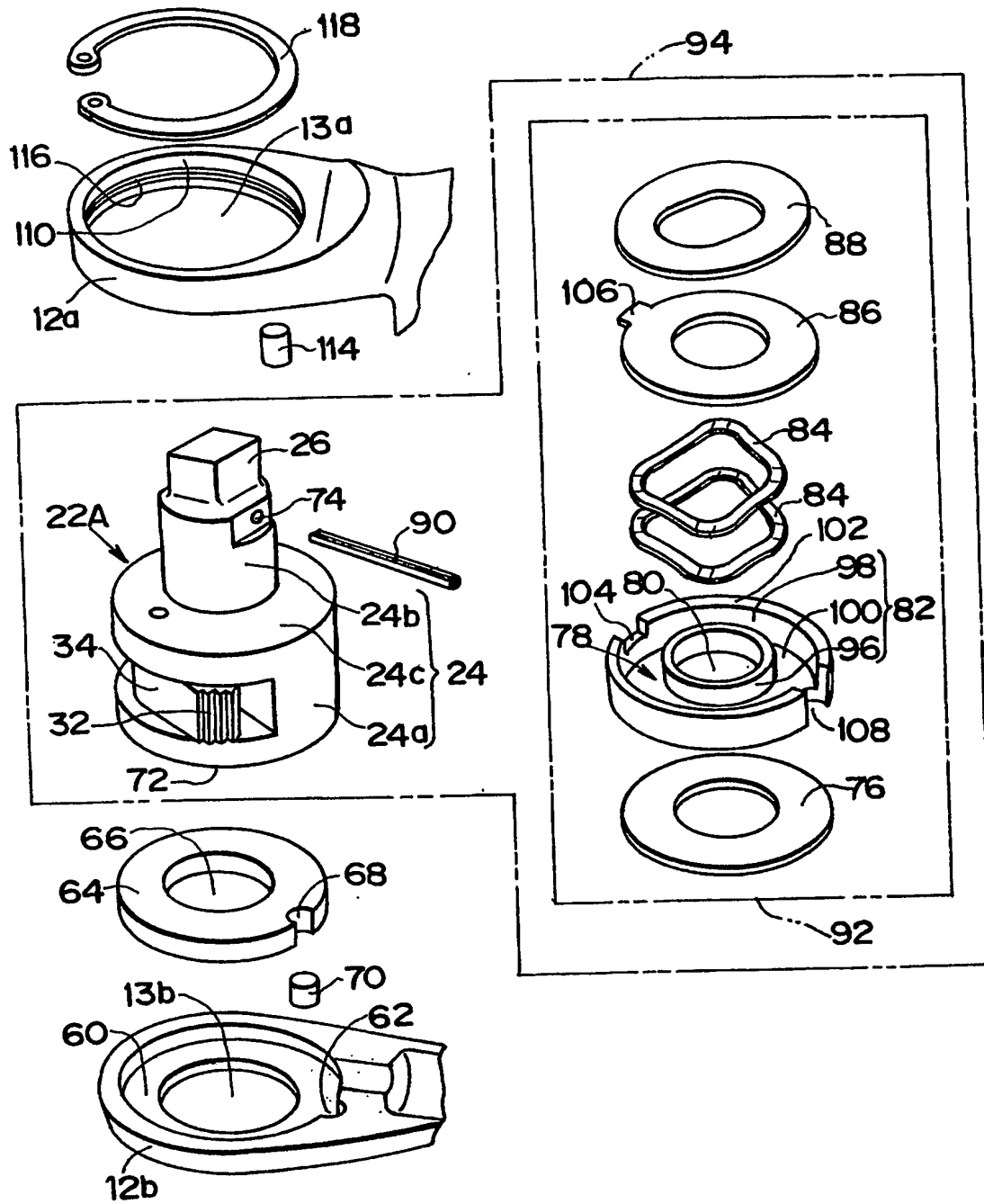
- 1 1 2 嵌合用へこみ部
- 1 1 4 回り止めピン
- 1 1 6 環状の溝
- 1 1 8 止め輪
- 1 2 0 環状のへこみ部
- 1 2 2 嵌合用へこみ部
- 1 2 4 対向壁
- 1 2 6 環状の溝
- 1 2 8 第四座金
- 1 3 0 止め輪

【書類名】 図面  
【図 1】

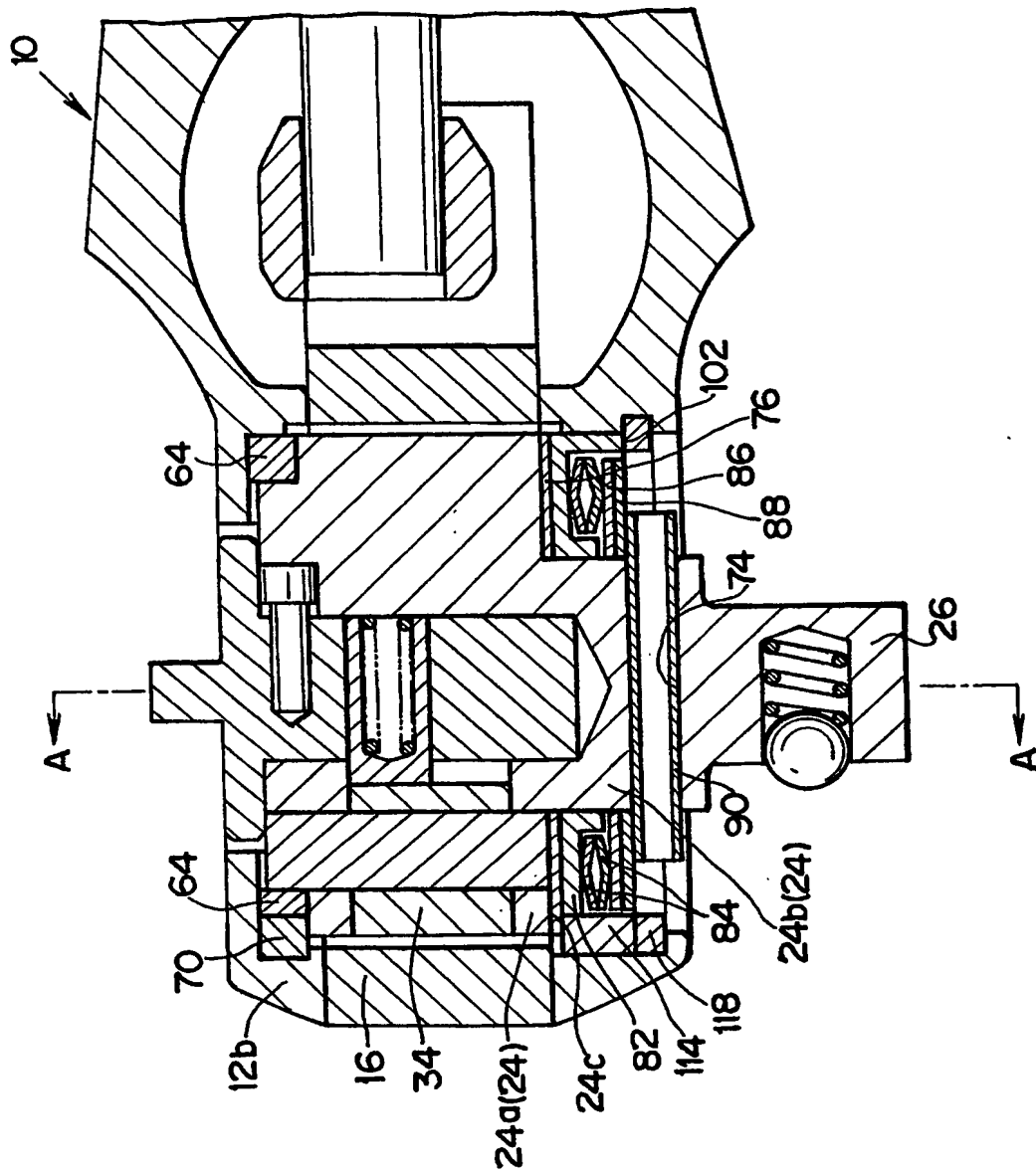




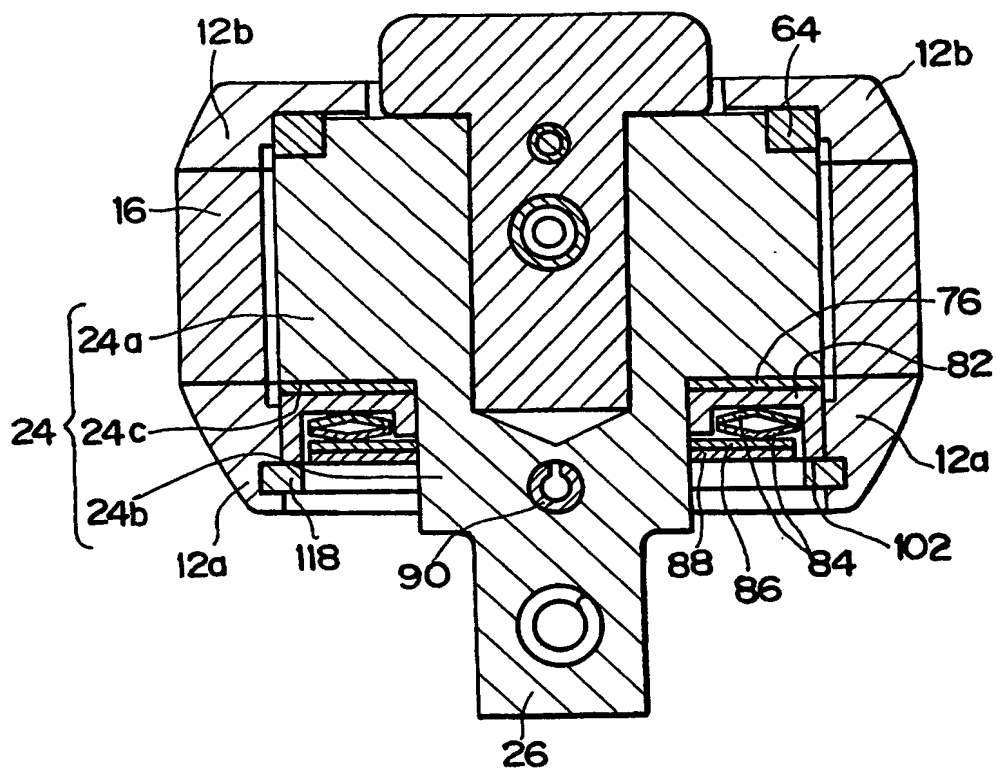
【図 2】



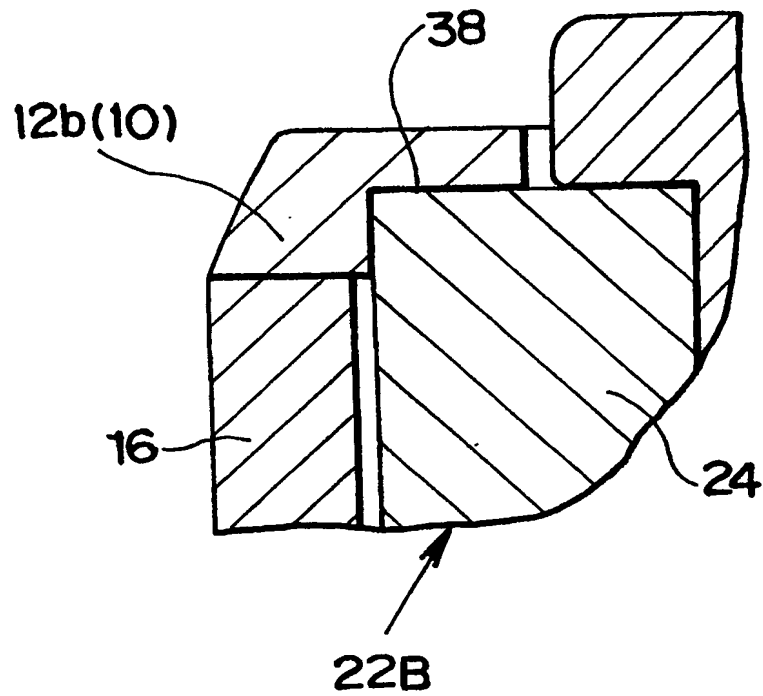
【図 3】



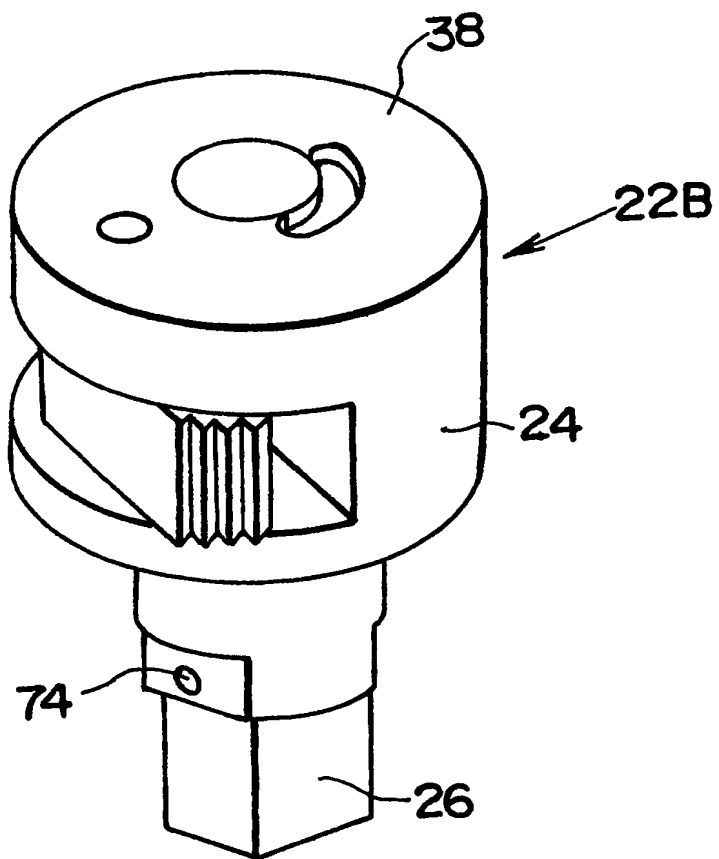
【圖 4】



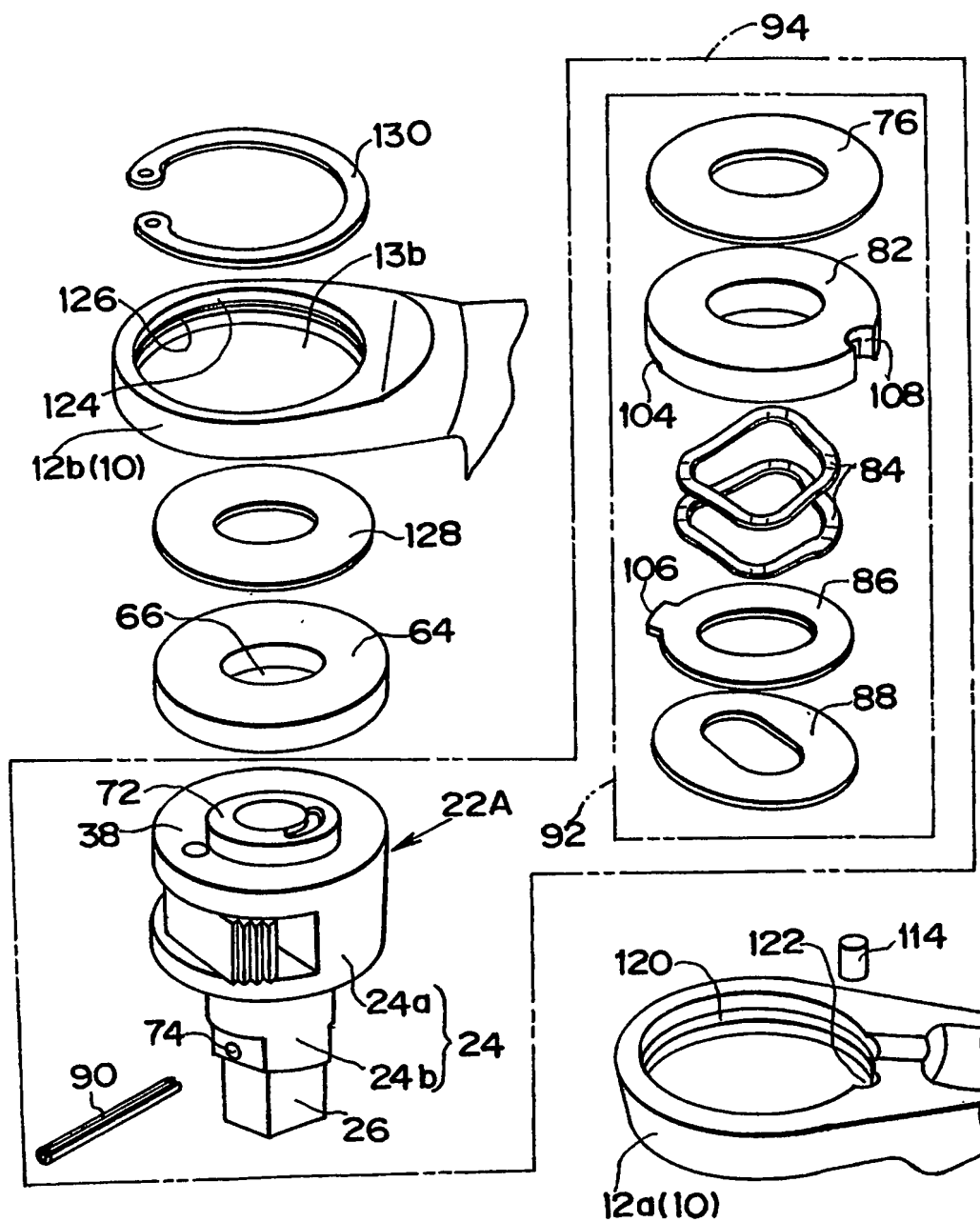
【図 5】



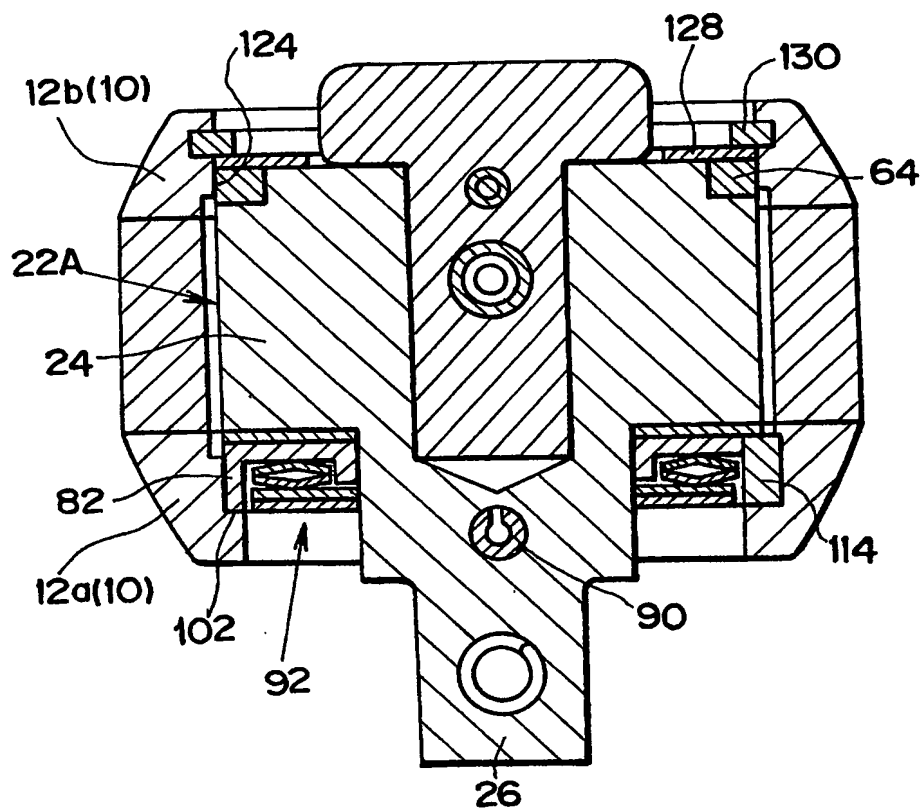
【図 6】



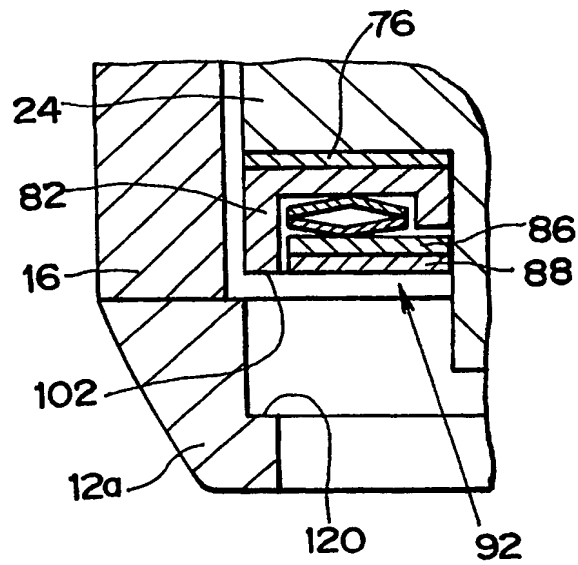
【図 7】



【図 8】

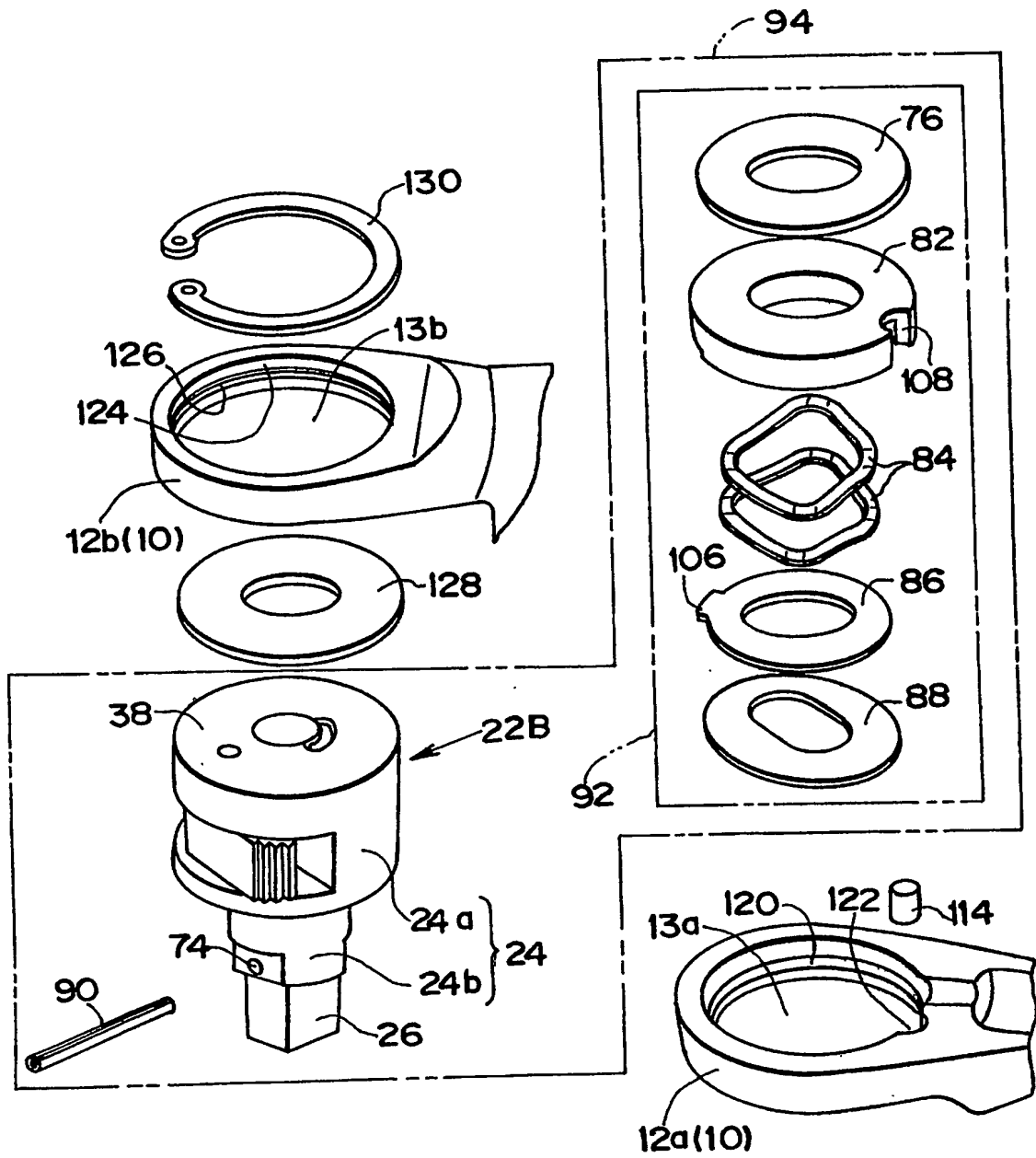


【図 9】

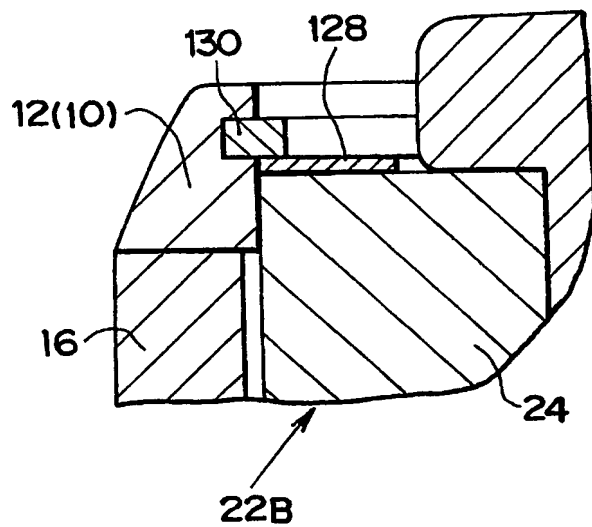




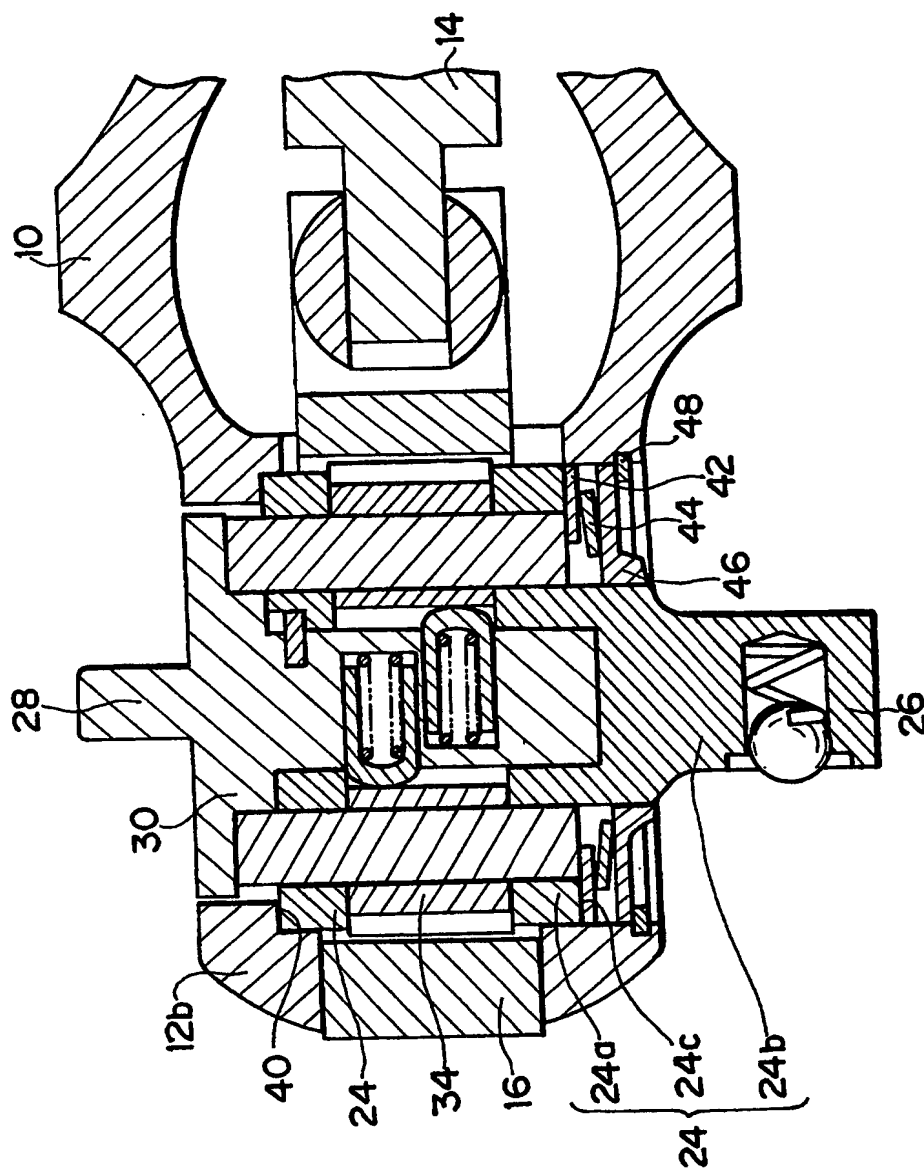
【図 10】



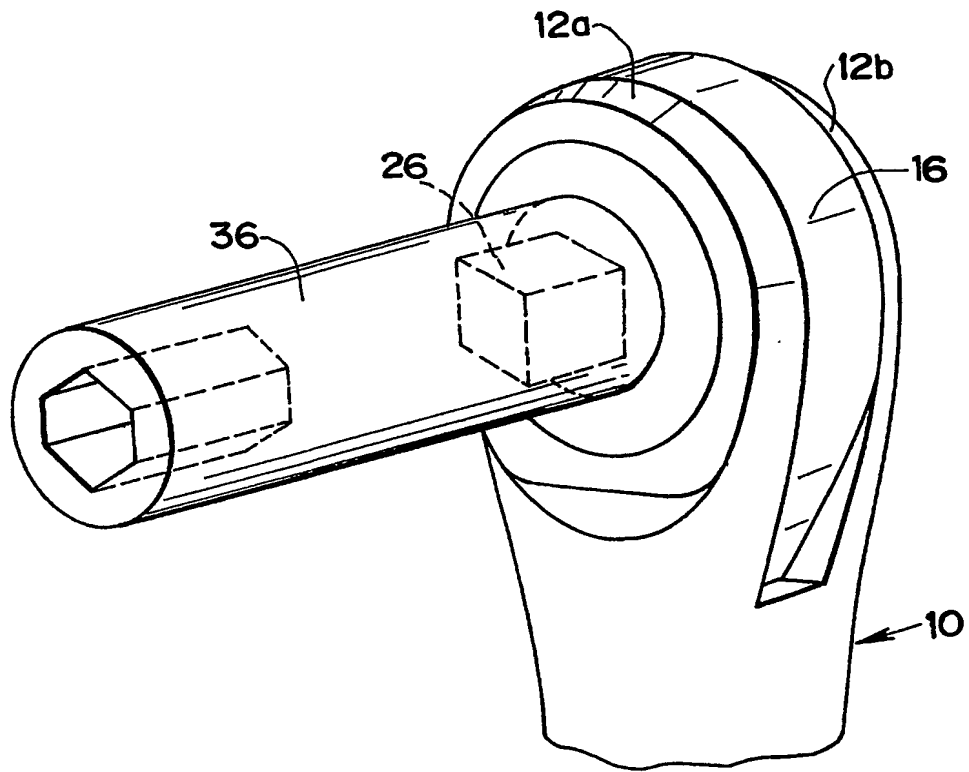
【図 11】



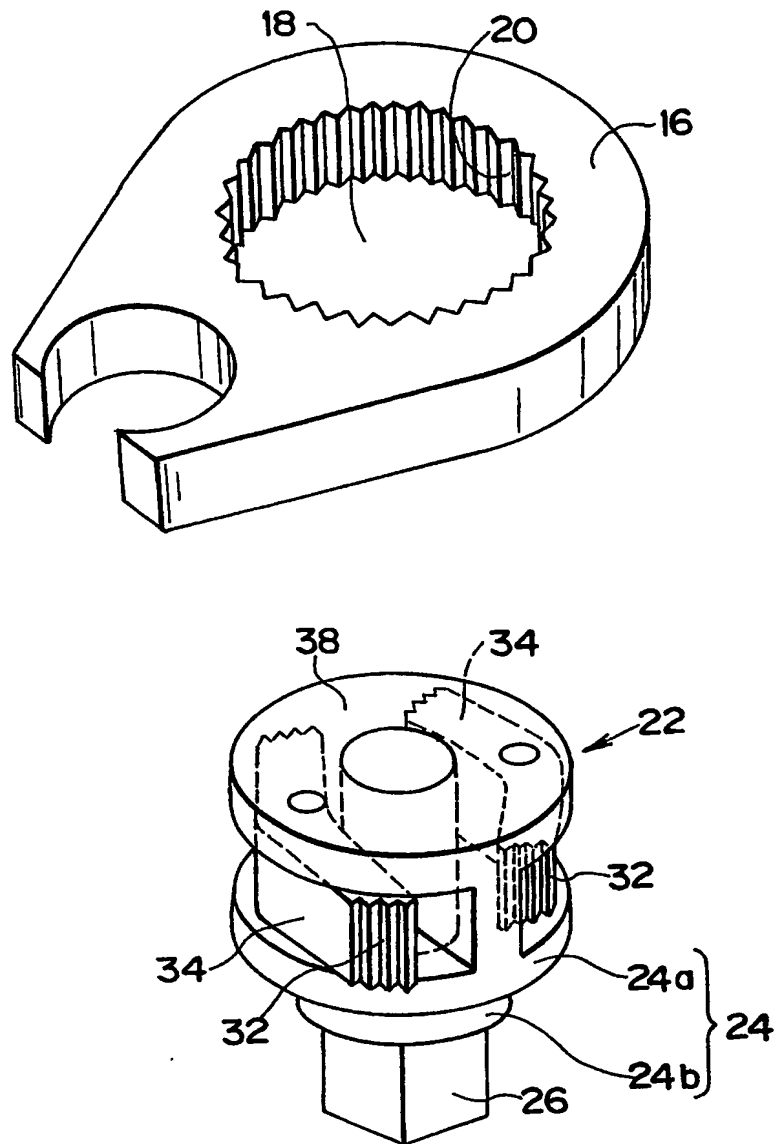
【図 12】



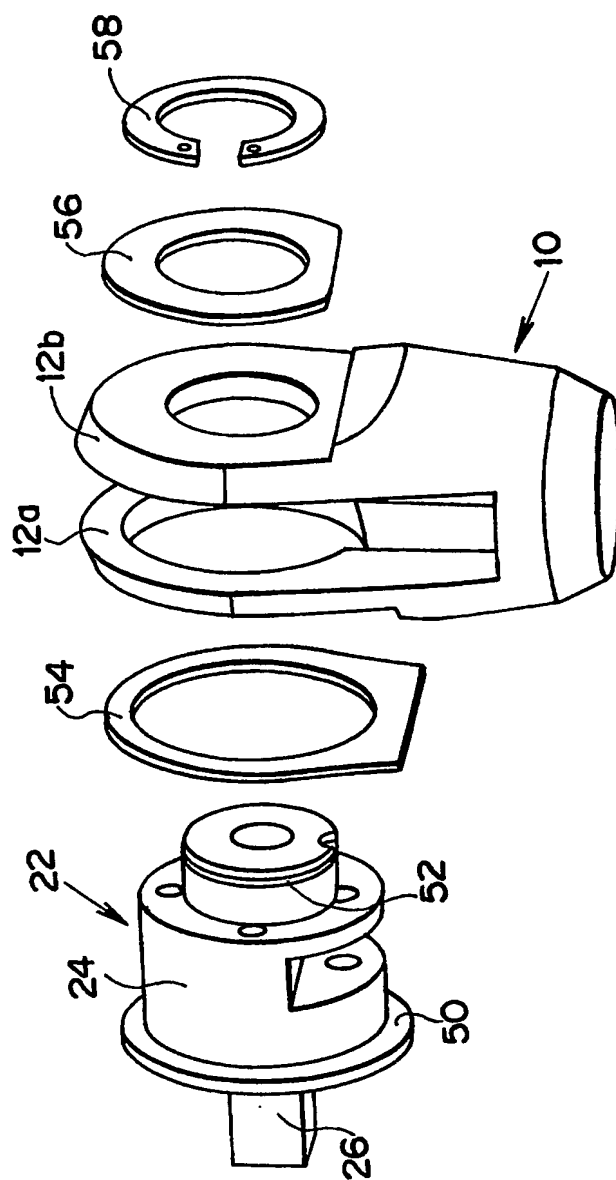
【図 13】



【図 14】



【図 15】



## 【書類名】要約書

## 【要約】

【課題】 一对の環状保持部の開きに関係なくシャンクにかかるフリクションを一定に確保し、操作開始時から所望のトルクをすることができるラチェットレンチを提供するものである。

【解決手段】 シャンク 22A に、第一ガイドブッシュ 82 と皿ばね 44 とを含む摩擦力発生手段 92 を止めピン 90 で取り付けて、組立体としてのシャンクアッセンブリ 94 を作る。皿ばね 44 のばね力はシャンクアッセンブリ 94 内にのみ及び、外部に及ぶことはない。シャンクアッセンブリ 94 を一方の第一環状保持部 12a の中央空間 13a から他方の第二環状保持部 12b に向けて挿入し、第二環状保持部 12b の内壁でシャンク 22A を保持する。シャンクアッセンブリ 94 の挿入後ろ側は、第一環状保持部 12a の溝 116 に取り付けした止め輪 118 によって第一環状保持部 12a の中央空間 13a 側から外部への抜けを阻止する。

【選択図】 図 2

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-276744
受付番号	50301197609
書類名	特許願
担当官	第一担当上席 0090
作成日	平成15年 7月23日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成15年 7月18日



【書類名】 出願人名義変更届  
【整理番号】 KE-03-010P  
【あて先】 特許庁長官殿  
【事件の表示】  
    【出願番号】 特願2003-276744  
【承継人】  
    【識別番号】 398004219  
    【氏名又は名称】 ケーアール工業株式会社  
【承継人代理人】  
    【識別番号】 100084353  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 八嶋 敬市  
    【電話番号】 03-3582-0944  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 041977  
    【納付金額】 4,200円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 承継人であることを証する書面 1  
    【援用の表示】 特願 2 0 0 2 - 3 3 2 1 1 8 の出願人名義変更届に添付のものを  
                    援用する。  
    【包括委任状番号】 9802047

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 2 7 6 7 4 4
受付番号	5 0 3 0 1 6 3 9 8 6 1
書類名	出願人名義変更届
担当官	小松 清 1 9 0 5
作成日	平成 1 5 年 1 2 月 2 4 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】 平成 15 年 10 月 2 日

特願 2 0 0 3 - 2 7 6 7 4 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 3 9 8 0 0 4 2 1 9 ]

1. 変更年月日

1 9 9 8 年 1 月 1 2 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都渋谷区代々木1丁目58番11号

氏 名

ケーアール工業株式会社

特願 2 0 0 3 - 2 7 6 7 4 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 5 0 1 4 9 2 0 3 0 ]

1. 変更年月日

2 0 0 1 年 1 2 月 2 1 日

[変更理由]

新規登録

住 所

神奈川県川崎市麻生区王禅寺東 4 丁目 2 3 番 1 号

氏 名

神谷 正

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**